

来春開業へ安全祈願祭

笠岡・住吉港
新待合所 県立大生デザイン

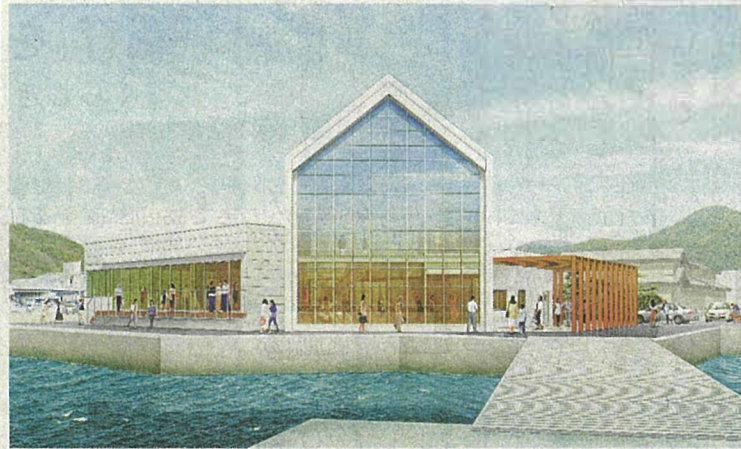
笠岡諸島への玄関となる笠岡市笠岡の住吉港で6日、市が整備する新しい定期船待合所の安全祈願祭が行われた。基本デザインやレイアウトは、地域の課題解決に関する連携協定を市と結ぶ県立大(総社市)の学生がアイデアを具体化。来春のオープンを目指す。

笠岡市によると、住吉港から定期船を運航する三洋汽船所有の現待合所の老朽化に伴う移転新築。北西約70メートルの県有地約千平方メートルを賃借し、鉄骨一部2階延べ約430平方メートルを建設する。

学生たちのアイデアを生かし、建物の海側の壁面はガラス張りとし、1階には切符売り場や待合室のほか、多目的に利用できる市民交流スペースを設置。2階には海を見渡せるデッキ、ギャラリーを設ける。敷地内にはイベントスペースや送迎バス駐車場として使える広場も確保する。総事業費は約3億2千万円。

安全祈願祭には市などから約30人が出席。小林嘉文市長らがくわ入れし、工事の無事を祈った。小林市長は「年間17万人に及ぶ定期船利用者を迎えるのにふさわしい待合所となる。新待合所を起点に笠岡駅南地区の再開発にもつなげたい」と話している。

(斎藤英宗)



笠岡市が新たに整備する定期船待合所の完成イメージ図